

われら小千谷市消防団

No. 41

# 団報 火の見やぐら

火事と救急は119番

発行 小千谷市消防団本部（広報部）

2024年3月号



文化財防火デー放水訓練（魚沼神社にて）

## 令和5年10月から令和6年3月まで主な活動内容

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 10月・第1回副分団長以上会議    | ・全国女性消防団員活性化大会石川大会 |
| ・令和5年度消防団地区別消防演習   | ・消防団車両交付式          |
| ・県女性消防団員活性化大会新発田大会 | 1月・消防出初式           |
| 11月・消防団施設点検        | ・文化財防火デー           |
| ・秋の火災予防運動          | 2月・消防団普通救命講習       |
| ・一人暮らし高齢者宅防火訪問     | 3月・第2回副分団長以上会議     |

## 活動服更新！

すでに市の広報紙や新聞などのメディア等で紹介されていますが、第四次小千谷市消防団整備計画に基づき、活動服の更新が今年度は第1～4分団に対して行われました。新年度に第5～8分団へ支給となります。



## 令和5年度第1回副分団長以上会議

10月4日(水)午後7時より消防本部3階講堂に於いて、令和5年度第1回副分団長以上会議が行われました。今回はコロナの第5類移行後、幹部が一堂に会す初めての機会となりました。

会議では、消防団確保についてや地区別演習、ポンプ操法、その他下半期の事業などが議題にあげられ話し合われました。



## 令和5年度小千谷市消防団地区別演習

10月15、22日の2日間、各方面隊ごとに地区別消防演習が行われました。今回は各方面隊長より報告をいただきました。

## 南部方面隊 方面隊長 関義憲

南部方面隊は10月15日、日曜日の午前8時から行われました令和5年度小千谷市地区別防災訓練に参加する事となり、消防団としての地区別演習は行いませんでした。

消防団の訓練は、第6分団が火災防御訓練の中継送水による放水、第7分団が岩沢自主防災会との災害図上訓練の参加と各体験コーナーへの参加、手伝いでした。

当日はあいにくの雨模様で、地元の参加者は少なく、少し寂しい訓練となりましたが、各分団とも訓練を無事遂行して頂きまして大変良好でありました。



今後の課題としましては、消防器具の取扱いがわからない団員がいたり、団員を指揮する



る事のできない班長や部長がいたり、動くことのできない団員が目立ちました。これからは団員1人1人が消防器具の取扱いや災害時に指示がなくとも何をしなければならないのか、また、班長や部長の役割などを明確にする事などの訓練の必要性を感じました。

## 西部方面隊 方面隊長 広川英士

西部方面隊長になってから初めての地区別演習になります。今までコロナが流行り、団員はまともに訓練をする事も出来ずに3年ぶりに開催されたにも拘らず、地域の自主防災会の皆さんにも協力して頂き良かったのではないかと思います。次回も計画をしっかりと立てて一致団結をし地元の安全！安心！を守れる様に努力したいと思います。



## 北部方面隊 方面隊長 和田直剛

北部方面隊では、22日AM千田中学校にて自主防災会による初期消火訓練をして、消防団の中継送水訓練を行いました。当日はグラウンドの状態が悪く室内方式となりましたが、概ね訓練は良く出来たと思います。

今後の課題としましては、無線での情報伝達がうまく出来なかったので検討する必要があると思いました。



## 東部方面隊 方面隊長 佐藤一

東部方面隊の演習は、22日午後、東山小学校を会場に行われました。

小杉第5分団長が大隊長を務め指揮をとり、自主防災会との連携をとりながらの地震想定訓練を行いました。会場が小さいためイベントの流れが一望できてわかりやすく、良かった点だと思います。私を含め指揮系統の練習不足や、器具の取扱いの粗末さもありませんでしたが、大きな問題は無く訓練を終えることが出来ました。



参加された町内関係者、職員並びに団員の皆さん、本当にお疲れさまでした。

## 第5回新潟県女性消防団員活性化大会新発田大会

10月28日(土)新発田市文化会館に於いて、第5回新潟県女性消防団員活性化大会新発田大会が行われました。この大会は、県内の女性消防団員が一堂に集い、地域を越えた交流を行うことにより、消防団活動の一層の活性化に繋げることを目的としています。

小千谷市からは女性部大淵分団長、横田班長、長谷川団員、間野団長、村山消防長が参加し知見を深めました。



## 一人暮らし高齢者宅防火訪問

令和5年秋の火災予防運動の一環として一人暮らし高齢者宅訪問が行なわれ、女性部からは11月28日(火)午後に川上班長が参加しました。

今回は片貝地区を回り、防火チラシの配布並びに防火指導等を行いました。また、数件の住宅では警報器の取り付けもありました。

## 令和5年度消防団施設点検

11月5日(日)午前、消防団施設点検が巡回方式で行われました。

団本部員と消防本部職員がそれぞれに分かれて担当地区を巡回し、点検をして要望等を聞きました。

各部の施設は整理整頓、管理がしっかりとされておりましたので今後も継続をよろしく願います。また今回の点検は団員が集まらず幹部が対応した部もあったようで近年の団員不足を実感する点検となりました。



## 秋の火災予防運動

火災の多発する季節を迎え、秋の火災予防運動が11月9日から15日までの1週間にわたり全国一斉に行われました。

火災発生の軽減に繋がるよう、各分団とも連日防火広報を展開しました。

今年の防火標語は

「火を消して 不安を消して つなぐ未来」

です。



## 第28回全国女性消防団員活性化石川大会

11月16日(木)、石川県金沢市いしかわ総合スポーツセンターメインアリーナに於いて第28回全国女性消防団員活性化大会が行われました。

小千谷市消防団からは女性部土田班長、川上班長、本団から間野団長、渡部副団長が参加しました。今回参加された女性部のお二人にコメントをいただきました。

皆さんご存知の通り、石川県は元日の大地震で多大な被害を受けました。参加された皆さんも訪れたばかりだけに複雑な胸中と思います。



### 女性部 土田班長

この度は活性化大会に参加させていただき、誠にありがとうございました。

様々な活動発表の中でも、災害時の避難所でのペット防災に関する問題や、女性団員もポンプ操法に参加している県もある、など興味深い話が聞けました。女性団員は全体の3%ということですが、女性だから、男性だから、ではなく「やってみたい！」という意志を尊重し、男性団員と一緒に活動する女性団員もいるのだ、というまさにジェンダーレスな時代を反映している話題でした。

その一方で避難所などでのねぎらいや配慮、笑顔の対応などは女性消防団員の方々の様々な取り組みを間近で見て、驚きと気づき、そして自分がこれから在籍していく上で、少しでも地域の防災に役立てることがあれば、積極的に参加していこうと改めて思わずにはいられませんでした。

女性部 川上班長

今回、各県から参加された女性消防団員の様々な活動発表などを拝見させて頂きました。地域に特化した取り組みや、歌を活用した防災など各団が活気溢れる活動をされている事が良く分かる内容となっており身に染みました。地域伝統の加賀鳶梯子登りなども御披露目されて、会場内も沸き上がっておりました。馳知事と山田邦子さんの特別記念講演では、山田さんがコロナ禍マスクによる顔のたるみを危惧して笑顔の大切さを語られました。我々も小千谷の人々が笑顔になれるような活動を目指して取り組んでいけたらと、一つ考える切っ掛けを頂きました。

また、夏の豪雨の経験と教訓を話に取り入れた小松市女性消防団による出前口座で改めて災害の恐ろしさを身に染みていたところでありました。

先日、能登半島沖地震が発生しその痛ましさをテレビで拝見して、被災された方々の心情を想像する事しかできない自分に無力さを感じております。現地の人々や消防団員の皆様に心からの追悼とエールを送ります。

## 消防団車両交付式

11月26日(日)午前、消防本部車庫内に於いて消防団車両交付式が行われました。

今回更新された車両は第1分団第6部(二俣)の積載車です。

開会后、間野団長より目録の交付が行われ、田中副分団長が宣誓書を読み上げました。

その後メーカーの担当者より車両、機材の説明が行われました。



今回の装備でポンプは小型軽量化の最新型となり有事の際には大きな威力を発揮してくれると思います。

団員の皆さんは日頃の点検・管理をしっかりと行い大切に使用してください。

## 消防出初式

1月7日(日)、例年通り予定されていた出初式でしたが、1日に発生した能登半島地震の影響で分列行進、一斉放水、式典等は中止され、二荒神社にて幹部参加の無火災祈願のみが行われました。



## 文化財防火デー

1月20日(土)土川町内の魚沼神社に於いて、文化財防火デーによる防災訓練が行われました。

今年は暖冬となり降雪もなく好条件の中で消防本部、消防団、土川自主防災会が訓練を行いました。

訓練では拝殿からの火災発生を想定し、通報訓練、文化財搬出訓練が行われ、続いて第2分団第1部土川ポンプ車、消防本部、土川自主防災会による放水訓練が行われました。

その後自主防災会による消火器訓練を行い最後に自主防災会長、間野団長の挨拶、有馬消防署長より講評を頂き終了となりました。



今回の訓練は昨年12月から2年計画で更新が始まっている活動服リニューアル後の最初の消防団行事となり訓練後に新潟日報さんによる撮影と竹部分団長が取材を受ける一幕もありました。



## 消防団普通救命講習

2月18日(日)、サンラックおぢやに於いて消防団普通救命講習が行われました。

間野団長の挨拶で講習会が開始され、講師を古田島救命士、星野救命士、田中普及員、女性部大淵分団長、石田部長が務めました。



実際にいつ直面するかわからない身近な人命救助だけに、皆さん真剣に取り組んで習得していました。

最後は久賀副団長より各団員へ修了証が手渡され、講習会は終了しました。

## 消防長の知恵袋（建物火災／ホース延長・放水活動 編）

この知恵袋は、消防団員の皆さんが建物火災において消火活動を遂行するにあたり、一般的に留意しなければならない安全管理上の主な事項について述べています。これらを参考に、火災活動時等の事故防止にお役立てください。

### 1 ホース延長

- ① 手びろめホースは、無理な本数の搬送は行わず、必ずホース結合金具または金具近くを確実に保持し、周囲や前方の障害に注意して延長する。

#### 【事件事例】

▽手びろめでホースを搬送する時、ホース金具を確実に保持しなかったため金具で胸を打ち負傷した。

▽手びろめによりホースを延長中、延びていたホースの分岐管につまづき足首を捻挫した。

- ② 路地等でのホースを延長するときは、側方の張り出し物に注意する。
- ③ ホースは道路の片側に寄せて延長し、伝令等の走行路を確保する。
- ④ ホースの屈曲、もつれ等に注意する。

- ⑤ 狭い道路、交差点などでホースを延長するときは、通行人や車両等との接触に注意する。
- ⑥ ホースは必ず広い場所で延長してから、路地等へ引き込むようにする。
- ⑦ 予備ホースや空の背負子等は、活動の支障とならない場所に置く。

【事件事例】

▽路地で手びろめによりホースを延長中、張り出し物に激突して顔面を負傷した。

## 2 放水活動

### ① 送水活動時

- ・ 機関員は、放水位置、ホース本数を確認して送水圧力に注意するとともに、送水中は常に計器類を監視する。
- ・ ホースの跳ね上がりを防ぐため、放口コックはゆっくり開放する。
- ・ 送水圧力の急激な上昇により結合部が離脱することがあるため、送水圧力は徐々に上げる。
- ・ 予備送水は目で確認できる位置まで行き、いつでも停水できる態勢を確保する。
- ・ ホースの曲折を直すときは、ホースの跳ね上がりに注意するとともに、曲折部に手をはさまれないよう注意する。
- ・ ホースと放水口や筒先との結合は確実にいき、結合状態を確認する。

【事件事例】

▽ホースの延長中に送水したためホースの金具が跳ね上がり、あごを負傷した。

### ② 放水活動時

- ・ 建物の燃焼状況、壁体等の受熱状況、焼損程度等を観察し、家屋、壁体の倒壊、屋根の落下等の危険を考慮し、活動団員の安全確保を図れる場所を筒先部署位置として選定する。
- ・ 筒先を背負うときや降ろすときは、周囲の安全を確認するとともに、自己の足元に落下させないように注意する。
- ・ 送水前であっても筒先は確実に保持する。また不意の送水があることを予測して、必要に応じてノズルは閉状態にしておくなどの措置をとる。やむを得ず、筒先を放して作業を行うときは、柱等の堅固な支持物にロープで結着するなど、通水時におけるホースの跳ね上がりを想定して、安全確保に努める。
- ・ 筒先を保持するときは、放水による反動力に耐えられるように前傾姿勢をとる。
- ・ 放水中は、足元が濡れ滑りやすいので注意する。
- ・ 筒先を移動する場合は、足元の状況、高所からの落下物等を確認して行う。

【事件事例】

▽現着し火点直近で放水しようとした時、高い圧力で水が来た為、その反動で筒先が顔面を直撃しそうになった。

### ③ 狭い場所での放水

- ・ 軒げた等の接続部分は、早期に放水して消火し、これらの落下を防ぐ。
- ・ 延焼部分の真下で活動することは避け、やむを得ず部署するときは、退路を確保して活動する。
- ・ 軒先の下に部署するときは、棒状注水等により窓ガラスや瓦等の落下危険物を先に排除する。
- ・ ノズルの開閉は徐々にいき、放水方向を変える場合は、落下物及び他の隊員に注意しながら行う。

【事件事例】

▽ 軒下で放水中、軒げたが落下し、手首に火傷を負った。

④ 壁体等の倒壊のおそれがある場所での放水

- ・ モルタル壁に亀裂、ふくらみが生じたときは、倒壊に注意する。
- ・ モルタル壁等のはく離、飛散に注意し、防火帽のシールド、しころ等を活用して顔面を保護する。
- ・ 筒先部署は壁体等の倒壊のおそれのない建物の角に位置し、送水圧力を低くするほか、モルタル壁等の状況を十分に監視する。

【事件事例】

▽ 延焼建物の周囲で放水中、はく離落下してきたモルタル壁が頭部にあたり負傷した。

▽ 木工品製作所の火災において放水活動中、火勢制圧のため放水位置を前進させた時に 2 階部分の外壁(モルタル)に取り付けられていた金属製の看板が落下し、腰部を直撃して負傷した。

⑤ 相対した位置での放水

- ・ 相対する位置への安全を確認したのち、送水圧力を調整して放水する。
- ・ 防火帽のシールド、しころ等を必ず活用し、顔面を保護する。
- ・ 相対した位置で活動している団員への放水を避けるため、必要時以外は水平放水しない。

【事件事例】

▽放水中、他の団員の放水を顔面に受け、右眼を負傷した。

⑥ 足元が水等で見えない位置での放水

- ・ とび口やつま先等で足元を確認し、足場を確保してから放水する。
- ・ 筒先の移動は、放水を一時停止したのち行うようにする。
- ・ 放水圧力の反動力により体勢を崩すことがないように注意する。
- ・ 危険箇所はロープ等で明示する。

【事件事例】

▽放水位置を移動中、放水により滞水していたくぼみに足をとられ、足首を捻挫した。

この度の令和 6 年能登半島地震により犠牲となられた方々に、深く哀悼の意を表すとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧を、心よりお祈り申し上げます。

また、本市消防団の皆様におかれましては、引き続き地域の安全安心を守るという使命の下、地元町内に密着していただきながら、住民の信頼と負託に応えて頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。

## 能登へ！

元日に起こった石川県能登地方を震源とする地震で、被害にあった被災地に対して第2分団第4部の有志が支援に動いています。

1月早々に支援物資と義援金の提供を行い、今後は被災地でのボランティア活動を行う予定との事です。

20年前の中越地震で受けた支援への恩返しと消防団になったからには助けたい、力になりたいとの思いから始まった素晴らしい行動です。



## 編集後記

冬が来て、インフルやコロナがまた猛威を振っているようです。そして新年、雪が無くていい正月が迎えられるねえと言っていた矢先の大地震。さらに連日の報道では火にまつわるニュース…今年はいったいどんな年になってしまうのだろうと不安な気持ちで一年が始まってしまいました。

さて、団報ですがこれまでの印刷した紙媒体からPDFで配布を行うことが第2回副分団長以上会議で了承されました。試行錯誤な部分もありますので、皆様のご意見もいただけたら幸いです。

### 団報 火の見やぐら No. 41

発行 小千谷市消防団本部  
事務局 小千谷市消防本部総務課内  
住所 小千谷市城内3丁目1番9号  
TEL 0258-83-0236  
FAX 0258-82-0209

Eメール syobou-soumu@city.ojiya.niigata.jp

団報火の見やぐらは市のホームページにも掲載されています。  
右のQRコードから是非チェックしてみてください。

